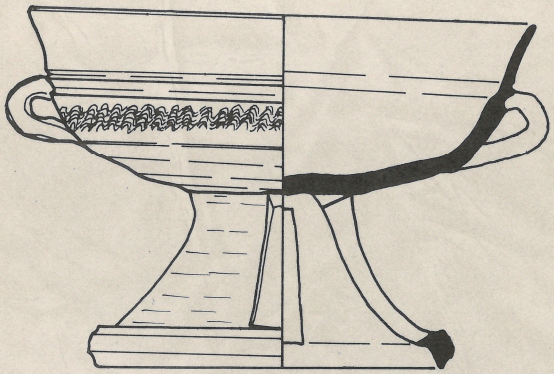
福部村埋蔵文化財調査報告書第８集

鳥取県岩美郡福部村

海士23·24号墳発掘調査報告書



1990.3

福部村教育委員会

海士23・24号墳発掘調査報告書　一九九〇・三　鳥取県岩美郡福部村教育委員会

序　　文

福部村には、古くから埋蔵文化財の存在が知られており、近年の発掘調査では、多くの貴重な資料が報告されています。特に遺跡の分布調査では未調査の部分を多く残しているものの100基以上の古墳が確認されており、貴重な文化遺産として後世まで保護すべく使命を痛感しています。

福部村における発掘調査は、そのほとんどが開発に伴うもので、海士23・24号古墳の発掘調査も文化財保護を最優先に考えましたが、福部村では村民グランド建設の有効候補地は限定され、やむを得ず記録保存という事態になりました。

今回の発掘調査では、その成果として古墳時代先住民の埋葬に至る数多くの資料が提供されましたが、福部村内には多くの遺跡・古墳が残されており、これらの貴重な文化遺産を今後どう保護して行くのか検討すべき良い機会でもあったと思います。

終りに、今回の発掘調査を実施するにあたり、鳥取県教育委員会をはじめ、関係各位の多大なるご指導、ご協力に対し深甚なる感謝を捧げるとともに、発掘調査に従事していただいた皆様に対し、厚くお礼を申しあげ発刊の挨拶といたします。

平成２年３月

福部村教育委員会
教育長　老門辰生

例　　言

1　本書は、福部村民グランド建設事業に伴い、福部村教育委員会が発掘調査を実施した海士23・24号古墳発掘調査報告書である。

2　本古墳は、鳥取県岩美郡福部村大字海士342－2外に所在する。

3　調査は、福部村教育委員会が調査主体となり、1981年９月22日から1981年11月16日までを現地調査、翌年３月31日で室内整理作業を完了した。

4　本書に掲載の地形図のうち挿図－１は、建設省国土地理院発行の２万５千分の１地形図を使用した。

5　本書に使用した挿図の座標・方位は磁北であり、標高は、東京湾平均潮位を基準としている。

6　本書の執筆は、鳥取県埋蔵文化財センターの協力のもとに松下利秀が執筆・編集した。

7　出土遺物・図面・写真等の整理は、調査員と作業員が鳥取県埋蔵文化財センターの指導により同センターで行った。

8　出土遺物、実測図等は、福部村教育委員会で保管している。

9　発掘調査に際し、現地調査及び報告書の作成にあたって、地元海士地区より多大なるご協力をいただき、鳥取県教育委員会の亀井熙人氏には、現地にてご指導をいただいた。記して感謝します。

発掘調査の組織

調査団長	河口　安信（福部村教育委員会教育長）1986年まで
〃	老門　辰生（　　〃　　）
調査指導	清水　真一（鳥取県教育委員会文化財主事）
〃	田中　精夫（　　〃　　）
調査主任	松下　利秀
調 査 員	長岡　充展
作 業 員	井上富士子　岸本美津子　中川登美枝　中原　健司　難波志津枝 浜本かず江　浜本　愛子　林　ユリ子　松本　ふき　松村美佐江 森川　繁子　村中　訓子　安田ちえ子　安田登美恵　山沢多鶴子 山根　栄子　山根富美枝
事務担当	谷岡　陽一　谷本　俊一

目　　次

第Ⅰ章　位置と環境 …… 1
第Ⅱ章　調査の概要 …… 7
　第１節　海士23号墳について …… 7
　第２節　海士24号墳について …… 14
図　版 …… 23

挿　図　目　次

挿図－１　福部村遺跡分布図 …… ３～４
挿図－２　海士23・24号墳地形測量並びにトレンチ分布図 …… ５～６
挿図－３　海士23号墳墳丘実測図 …… ９～10
挿図－４　海士23号墳周溝南部の断面実測図 …… ９～10
挿図－５　海士23号墳埋葬主体部遺構図 …… 11
挿図－６　海士23号墳出土遺物実測図(１) …… 12
挿図－７　海士23号墳出土遺物実測図(２) …… 13
挿図－８　海士24号墳墳丘実測図 …… 15～16
挿図－９　海士24号墳埋葬主体部遺構図 …… 17
挿図－10　海士24号墳出土遺物実測図(１) …… 18
挿図－11　海士24号墳出土遺物実測図(２) …… 19
挿図－12　海士24号墳出土遺物実測図(３) …… 21

表　　目　　次

表－１　海士23号墳出土遺物一覧表(１) …… 8
表－２　海士23号墳出土遺物一覧表(２) …… 11
表－３　海士24号墳出土遺物一覧表(１) …… 19
表－４　海士24号墳出土遺物一覧表(２) …… 20
表－５　海士24号墳出土遺物一覧表(３) …… 22

図　版　目　次

図版－１　調査地遠景 …… 23
図版－２　海士23号墳（１） …… 24
図版－３　海士23号墳（２） …… 25
図版－４　海士23号墳（３） …… 26
図版－５　海士23号墳（４） …… 27
図版－６　海士24号墳（１） …… 28
図版－７　海士24号墳（２） …… 29
図版－８　海士24号墳（３） …… 30
図版－９　海士24号墳（４） …… 31
図版－10　海士24号墳（５） …… 32

第Ⅰ章　位置と環境

海士古墳群は、いわゆる鳥取砂丘の東部に存在する福部砂丘の後背地に位置して汽水性に潟湖を形成していた湯山池・細川池に面する北向き斜面の丘陵地に位置している。

福部砂丘をやや細かく見ると、県集落背後の古砂丘と直浪遺跡背後から東北東走向する新砂丘Ⅰ、そして浜湯山から東北東走向する新砂丘Ⅱの三列より成る横列砂丘により構成され、古砂丘は大山中部火山灰により被われる砂丘であり、新砂丘Ⅰはクロボクに被覆される砂丘であり、新砂丘Ⅱは歴史時代に形成された砂丘であろうと考えられる。従って、縄文遺跡として知られる直浪遺跡は当時すでに形成されていた潟湖（湯山池）に南面する遺跡であり、細川池周辺も含めてこの地域が古代から安定した経済基盤に支えられていた地域と推定される。福部村にはその他にも縄文遺跡として県内外に有名な栗谷遺跡が知られ、ここでは北白川下層Ⅱ式（縄文前期）から橿原式（縄文晩期）へ連続する各形式の土器群が確認されると同時に豊富な木製品や石器類そして動・植物遺体などと共にサメの歯牙を利用したペンダント或いは山陰地方で初見の製塩土器なども検出されている。

この湯山池・細川池は江戸末期に干拓がなされるまで潟湖としての特徴を存続していたと思われ、小泉友賢（1688）による『稲葉民談記』に載る古地図にもこれらの池が描かれており、「湯山にて塩を製す。細川・湯山の池にて鮒・小えび・菱を産す」という記述は注目に値する。また『三代実録』貞観五年（863）十一月の条に「……因幡国言新羅国人五十七人、来一着荒坂濱頭。……」とあり、当時の荒坂とは『延喜式』・『和名抄』の両方に載る法美郡にある式内社の荒坂神社の在った所を示すと考えられており、その旧所在地として塩見川河口より約3km遡った宮奥集落付近が比定されている。つまり外洋航海にも耐え得る五十七人を乗せる船とは単なる小舟ではなく、平安時代の細川池は日本海に通じる豊かな内湾を呈していた事と想像される。

また、『延喜式』・『和名抄』には法美郡服部郷に所在する式内社として服部神社を載せ、この神社の旧所在地は海士集落南方の丘陵地が比定されている。『稲葉民談記』は服部庄として南田村・栗谷村・八重原村・矢谷村・高江村・海士村・湯山村・細川村の八ケ村を載せ、この服部庄はいわゆる荘園時代から鎌倉時代後半までその領家職を因幡国一の宮である宇倍神社が持っていた。そこで注目したいのは、宇倍神社つまり伊福部氏（法美郡々領）が古代よりこの地をその管轄下に置いていた事であり、『日本書記』（成務紀）の記述に「五年の秋九月に、諸国に令して、国郡に造長を立て、県邑に稲置を置つ。並びに盾矛を賜ひて表とす。則ち山河を隔ひて国県を分ち……」とある事である。これと同種の指摘は『岩美町誌』でもなされ、『延喜式』に載る式内社高野神社は巨濃郡に数えられ『和名抄』には法美郡高野郷と載る。

つまり福部村はいつの頃からか巨濃郡に編入されるが、それ以前は法美郡の管轄下にあ

り、また岩美町の高野郷も同様である。これについての若干の解釈は『上ミツエ遺跡発掘調査報告書Ⅱ』(岩美町教委)に述べたが、法美郡(伊福部氏)にとって現在の岩美町岩常から福部村蔵見への高野坂ルートは重要な意味を有していたと思われる。

そこで村内の古墳について見ると先ず小札鋲留眉庇付冑・他を出土した湯山6号墳を挙げる事が出来、この古墳は古墳時代中期の円墳(箱式石棺)で湯山池に面した湯山の低丘陵突端に位置している。次いで海士25号墳(前方後円墳)はその埋葬主体部の石棺に柱状石材を使用していた事で知られ、この柱状石材を使った石棺をもつ古墳として岩美町の新井51号墳・小畑8号墳・浦富3号墳そして城崎町の小見塚古墳などが挙げられる。また横穴式石室の蔵見2号墳と蔵見3号墳は陶棺の破片を多量に出土した事で知られ、二上山南麓の高野坂ルートを越えた岩美町福石遺跡内でも須恵質切妻家型陶棺の出土が知られている。そして横穴式石室の中でも法美郡に特徴的と言われる中高式石室について見ると村内では今の処、高江6号墳・南田1号墳・蔵見(くらみ)2号墳・蔵見3号墳が知られ、概略的に塩見川流域と国府町との境界の上野山古墳群に見られる様に思われ、中高式石室と陶棺との関連は吉備との影響を考慮しつつ今後注目する必要が在る。

また、塩見(しおみ)川上流の地名に久志羅(くじら)・左近(さこ)が在り、『伊福部臣古志』に載る第25代久遅良、第27代国足(従四位上左衛門督)と関連深く思われ、単なる偶然とは思われない。

つまり、湯山6号墳の被葬者を考える時にはその豊富な副葬品より海上交易に熟達した海部を考える事が出来、柱状石材を使用した石棺を有する古墳についても但馬との関連と共に海部の存在を推定させる様に思われる。また、中高式石室については伊福部氏の関与を想定する事ができ家型石棺・陶棺との関連で考えるべきであろう。そして服部庄・服部神社に着目すれば服部氏の存在も無視する事が出来ない。従って福部村内の古墳群を概観する時、単一の在地豪族によるものとは考えられず、今回調査した海士24号墳の如くは古墳時代後期後半になっても横穴式石室を受容せず、木棺直葬の円墳を造営している。

最後に、福部村の古墳時代後期後半(六世紀後半)以後の社会を考える時には法美郡つまり伊福部氏の存在を無視して考える事は出来ない。伊福部氏は何故、その地形的境界を無視して現在の福部村をその管轄下である法美郡に置き得たのか。伊福部の抬頭からその勢力の衰退過程を追う事は福部村の歴史を考えるのみに止まらず、因幡国全体の歴史を究明する事となる。そしてその調査対象地域として村内の古墳群は極めて重要な鍵を握っていると言える。

参考文献

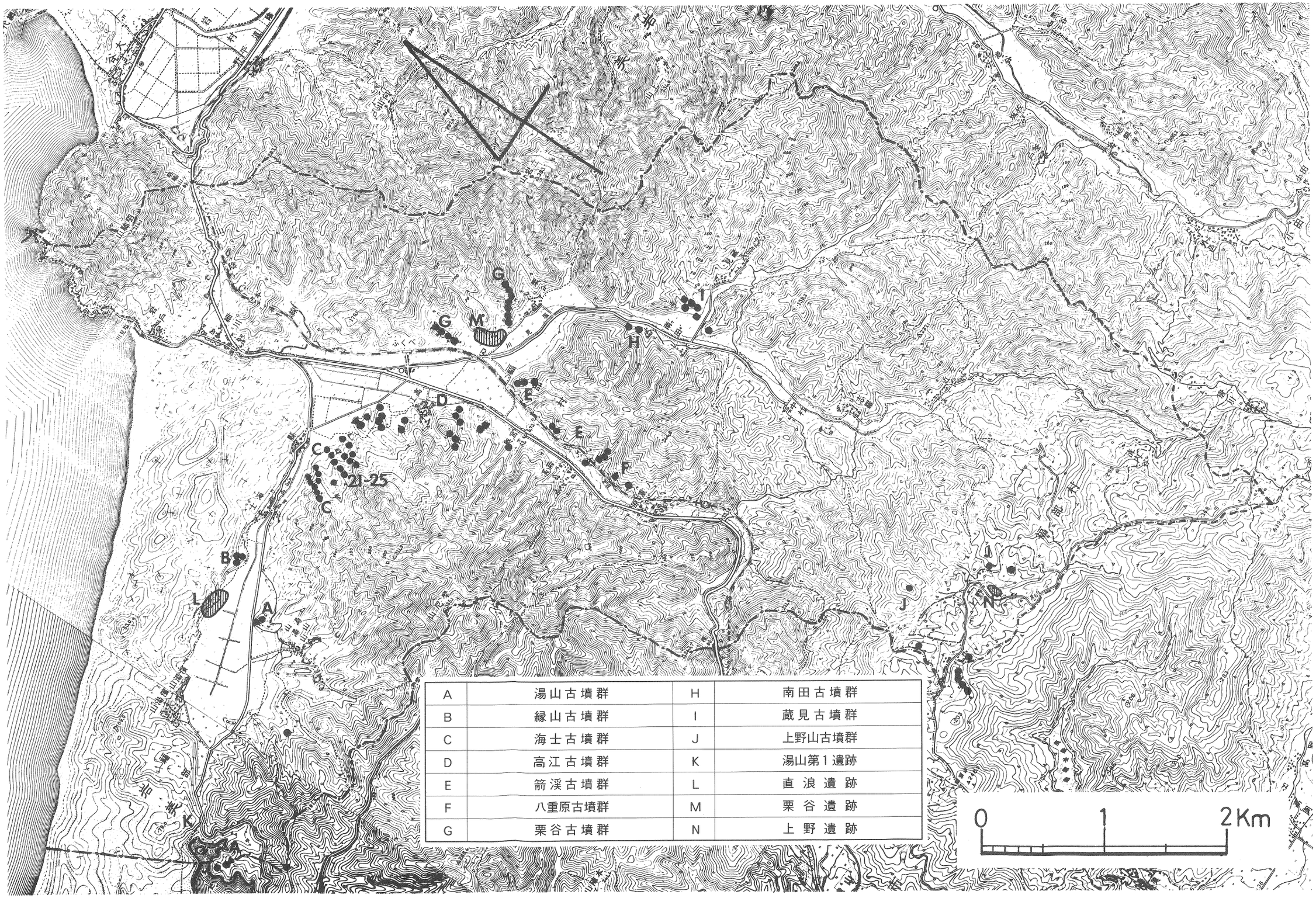
(1) 福部村(1981):福部村誌

(2) 福部村教育委員会(1989):栗谷遺跡発掘調査報告書Ⅱ

(3) 鳥取県(1972):鳥取県史・原始古代編

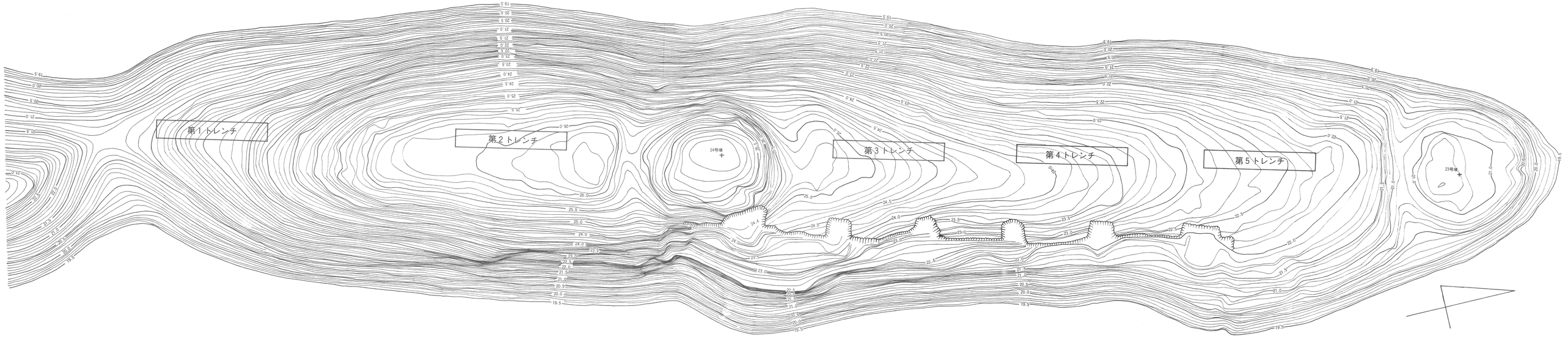
(4) 八頭郷土文化研究会(1988):新編八頭郡誌(一) ふるさとの歴史 上 坂本敬司:古代のふるさと

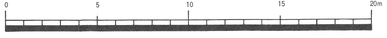
(5) 下高瑞哉(1986):中高天井をもつ横穴式石室について(鳥取大学卒論)



A	湯山古墳群	H	南田古墳群
B	縁山古墳群	I	蔵見古墳群
C	海士古墳群	J	上野山古墳群
D	高江古墳群	K	湯山第1遺跡
E	箭渓古墳群	L	直浪遺跡
F	八重原古墳群	M	栗谷遺跡
G	栗谷古墳群	N	上野遺跡

挿図－1　福部村遺跡分布図





挿図－2　海士23・24号墳地形測量並びにトレンチ分布図

第Ⅱ章　調査の概要

海士23・24号墳は、標高約20～26ｍのほぼ南北方向で孤立丘陵状を呈する丘陵尾根上を選地して造営されている。北方下位の水田面との比高は約15ｍと低く、東隣する丘陵の先端部には水田面と略同レベルで海士25号墳（前方後円墳）があり、西方の丘陵尾根上には密集して20数基の古墳が確認されている。

従って調査は、当初より確認されていた海士23号墳と24号墳の距離が約55ｍと離れ過ぎている為その間に３本のトレンチを設定すると同時に、海士24号墳の南方に２本のトレンチを設けて古墳の有無の確認作業を行なう事とした。また、その事前調査として縮尺100分の１で10cmコンターの地形測量を行なった。

５本のトレンチ調査では層厚約10cm程度の表土層の下位に直ちに地山火山灰が現れ、全てのトレンチで遺構・遺物の確認はされなかった。その為調査の主力を海士23・24号墳に置く事として、丘陵全面の表土剝ぎ作業は行なわなかった。以下、簡単に２基の古墳についての概略を記述する事とする。

第１節　海士23号墳について

海士23号墳は、標高約20ｍの丘陵先端部を選地しており径約10ｍの円墳である。墳丘の高さは約90cmを遺存し、埋葬主体部はそのほぼ中央に木棺を１基直葬する個人墓であった。

埋葬主体部は、その掘方規模260×110cmを測る隅丸長方形を呈し、その長軸方位はＮ－79°－Ｗを示す東西方向の埋葬主体部である。埋葬施設は見かけ上、隅丸長方形を呈しているが、その棺床規模175×52cmの小口痕を残さない木棺と考えられ、掘方の東端から約60cm離して西方寄りに設置されていた。

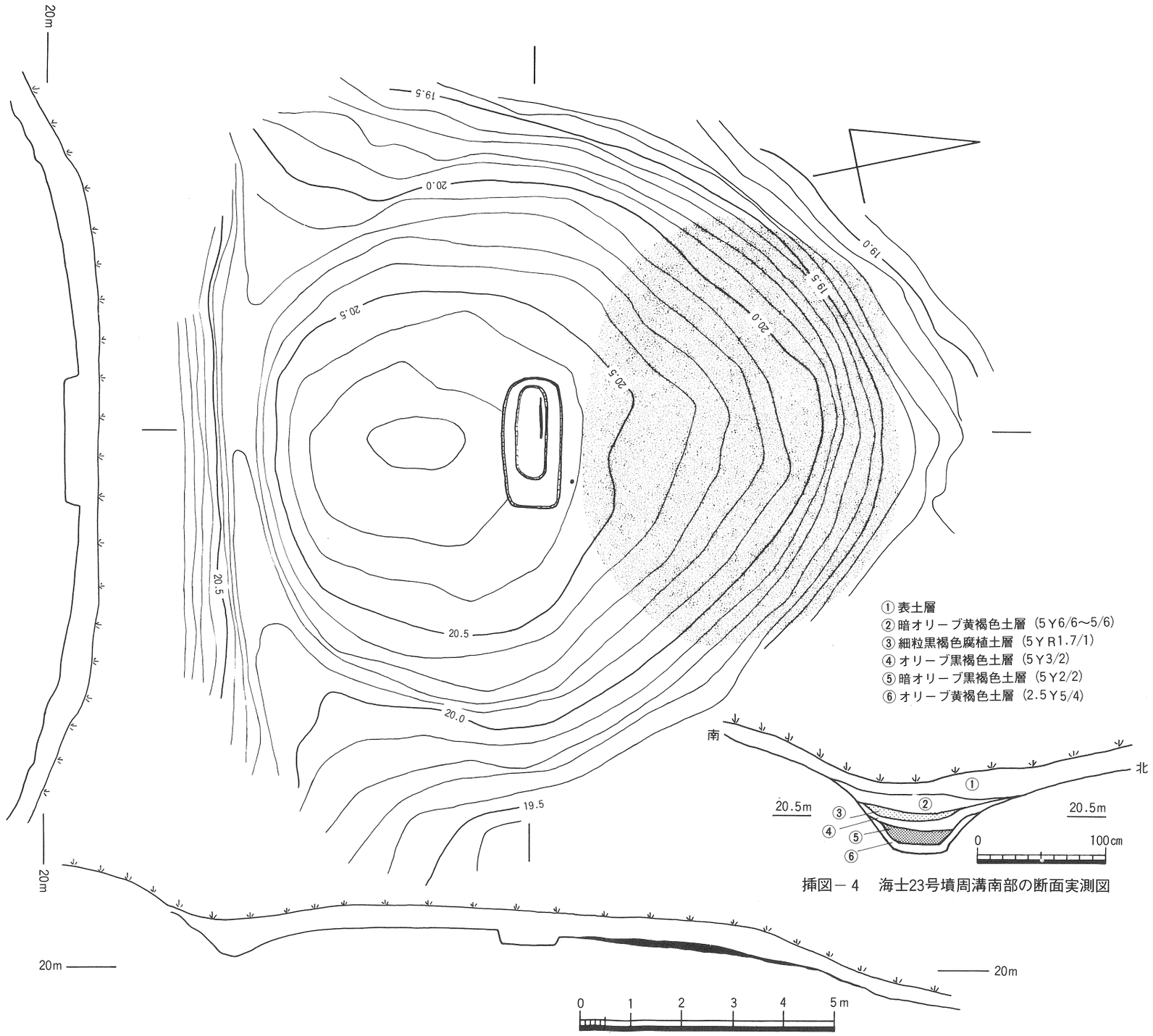
墳丘の保存状態は極めて悪く、墳頂部付近で約20cmの表土層盛土直下で暗黒褐色腐食土層の溝状遺構が検出された。その規模は235×60cmで中央部東寄りがやや膨れる長楕円形を呈し、いわゆる木棺の腐食により盛土が落ち込んだ為に出来ると考えられている遺構とはその性格が明らかに異なると判断される。周溝は南部のみが保存され、北部・東部・西部のそれは流出し遺存していなかった。南部周溝断面は、幅約120cm・深さ55cmを測り丸底状を呈し、断面観察により二層の暗色帯が確認される。

また墳丘の築造方法は、選地された後に地表が焼き払われ、その後墳丘南部を掘って盛土を行なったと考えられ、墳丘北部の盛土層内には炭片が見られたと同時に盛土下位には、焼却された旧地表が明瞭に残されていた。

出土遺物は墓壙直上の溝状遺構より、須恵器の坏身・蓋・高坏を各１個体、土師器の壺(1)・高坏(3)を検出し、棺内出土遺物として棺床よりやや上位で土師器の高坏(2)を検出し、

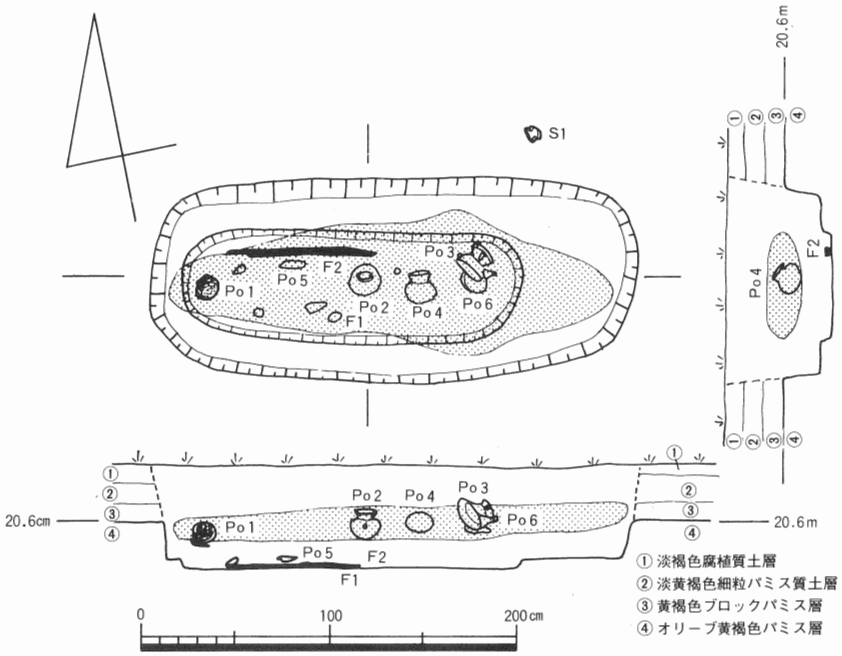
整理番号	器　型	法量(cm)	胎　土	焼　成	色　調	出土位置	形態上の特徴	手法上の特徴	備　考
Po1	坏　身	口径11.6 器高 5.4 受部径 13.6 立上がり 高　1.9	巨礫点在 均質緻密	やや良好	外面浅オリーブ褐～淡青灰 色内面浅紫褐色	海士23号 墳埋葬主 体部	外反気味でやや内傾する高めの口縁部の端面は内傾する平面で段は無い。短かく水平方向へ尖がる受部の内面は上方への凸面を呈し、その内縁には凹線が見られる。体底部には弱い丸味がある。外底部中央に鋭利な工具（太さ0.3mm程度）による「U」字の弱い線刻を認める。	マキアゲ・ミズビキ成形。受部はオリコミ手法と思われ、口縁部端面はカット後にナデ仕上げされハケ状工具痕を残す。口縁部内外面ヨコナデ。体部の内面はヨコナデ調整後底部の中央部に丁寧なスリケシ状ナデ仕上が見られた後、1～2回の片方向指ナデが見られる。体部外面には全体の⅔以上にも及ぶ回転ヘラケズリが認められる。	通常の須恵器に比較して、重量が軽い。
Po2	瓮	口径11.9 器高15.1 頸基径 6.4 体部最大 径　16.3	巨礫点在 均質緻密	良好	灰青灰色	海士23号 墳埋葬主 体部	口径が体部最大径の⅔と小さく、口頸部の立上がりは体部高の約⅓と短かい大型の瓮である。短かい頸部は外反気味で外傾し、その上位に短かく下外方へ向く鋭い稜がある。稜の直上には一条の凹線が巡ぐり内弯しながら外傾する口縁の上端部で短かく大きく外反し、肉薄で丸味のある口縁上端部外縁となる。口縁部上端面はやや内傾する凹面である。体部最大径位は器高に対して中位、体部の中位上部にあり、やや肩の張る体部である。	外面、口縁下部に6本歯よりなる櫛描波状文が施され、口縁上部はヨコナデされる。口縁部と頸部の境は一条の凹線と稜があり丁寧にナデ仕上される。頸部全面には櫛描波状文が施され、その上半部に弱いヨコナデを感じる。肩部はやや左斜する平行叩きの後スリケシ状ナデ仕上。肩部下位には、その上端と下端に一条のやや丸味のある凸線を有する施文帯があり、カキメ調整された後にその中位に6本歯櫛描波状文が施される施文帯への円孔は略水平方向から入れられる。体上部は水平カキメ調整後弱いナデ仕上。体下部は不整方向の平行叩き目調整後弱いナデ仕上。内面は体下部以外はヨコナデされ肩部には指頭圧痕を感じる。体部の下底部には当て具痕様のものが明瞭に見られるが、その後のナデ調整の為に文様は不明。	底部穿孔された可能性が大である。（径約7.5cmの略円形）
Po3	高　坏 （無蓋）	口径18.1 器高12.3 脚径12.2 脚基径 5.8 坏部高 6.3 脚部高 6.0	巨礫点在 均質緻密	良好	外面坏部 淡紫～灰 青灰 外面脚部 黒青灰色 内面坏部 暗青灰～ 黒青灰 内面脚部 淡紫灰色	海士23号 墳埋葬主 体部	一対の耳を有する短脚一段四方透しのやや大型の無蓋高坏である。器高と脚径が略同値を示し且つ口径の⅔の値を示す。また、坏部高と脚部高も略同値を示し且つ器高・脚径の約⅓の値を示す。坏底部は水平気味で平担であり内弯しながら立上がる。外面体上部には8本歯櫛描波状文が見られ、その下位は一条の擬凸線様、その上位は短かく尖がり気味の稜二条により画される。口縁部は直立気味に外反して立上がり、その上部で外傾する。口端部には丸味がある。脚部は外反する「ハ」の字を呈し裾部上縁で内傾する平面となる。裾部の上部と下部は弱い凹面を呈し、中部は直立気味で丸味がある。丸味のある裾部内縁は直立気味で接地する。脚部の透し窓は長方形に近い台形を呈する。	坏部の口縁部内外面ヨコナデ。内面坏体部もヨコナデされるが、両耳位には指頭圧痕を明瞭に残す。内底部には不整方向のナデ仕上げが見られるが、その中央部に径約6.5cmの接合痕が認められる。外面坏体部の上部には櫛描波状文を施文後に断面略円形の耳が一対貼付られている。体下部は丁寧にヘラケズリされる。脚部外面は丁寧なナデ仕上げされ、後に坏部の外底部と脚裾部に工具痕を残す透し窓が四方に穿たれる。脚部内面は丁寧なヨコヘラケズリ。脚天井部は水平で平担。脚裾部内外面ヨコナデ。	
Po4	丸底壺 （中型）	口径11.5 器高15.0 頸基径 8.3 体部最大 径　14.7 口頸高 4.0	中小礫散 在 やや粗雑	良好	内外面 浅黄橙褐 色（外面 全面に浅 橙色スリ ップ？）	海士23号 墳埋葬主 体部	器高に対して⅓よりやや短かい口頸部は内弯気味外傾して逆「ハ」の字を呈し、口端部には丸味がある。口頸部内面は短かく内弯した後、緩やかに内弯して口端部に至る。体部は球に近い横長の偏球状を呈し体部最大径位は体部の中位にある。	口頸部内外面ヨコナデ、外面肩下部に一部ヨコハケを感じる。外面の全面に赤色顔料様のスリップが施されるが、剥落が激しい。内面体上部は比較的丁寧なヨコナデ仕上を見るが、体下部は粗雑で不規則なヘラケズリ後未調整に近いナデ仕上げである。内面肩部へのケズリ込みは見られない。	
Po5	高　坏	口径18.9 器高13.2 脚径 9.5 坏部高 7.0 脚部高 6.2	均質微粒 （水簸 胎土）	良好	素地は淡 黄橙～浅 黄褐色。 全面に赤 色顔料を 塗るが、 脚内面に は赤色指 痕のみ。	海士23号 墳埋葬主 体部	口径の約⅓の脚径を有し、器高の⅓以上の深い坏部を有する。坏底部は水平で平担であり、坏体部は内弯気味に逆「ハ」の字に二段階で立上がり、口縁部で短かく外反してやや丸味ある口端部となる。坏底部外縁には段を有する。脚上部は内弯気味でやや内傾し、脚下部で大きく内傾する。脚端部は坏口端部と同様に丸味のある所とやや角張る所とが見られる。脚天井部に径約4mmの筒孔が見られる。	坏部外面ヨコナデ、内面右斜上方へのヘラケズリ後ヨコナデ。（坏部の内外面にヘラミガキを見ない）外面坏底部から脚上半部の一部にタテハケメ調整が認められ、後脚上半部に面取りヘラミガキの痕跡がある。外面脚下半部ヨコナデ。内面脚下部の一部にヨコハケメ調整、後指頭圧痕を明瞭に残こし、内面脚部の仕上げに粗雑感がある。赤色顔料は最終段階仕上後に施される。	赤色顔料 （2.5 YR⅝）
Po6	高　坏	復口径 19.2 復器高 17.6 脚径14.0 坏部高 9.0 脚部高 8.6	均質微粒 （水簸 胎土）	良好	素地は淡 黄橙内外 面の全面 に赤色顔 料塗付。	海士23号 墳埋葬主 体部	器高の約⅓の深い坏部を有し、坏底部外縁に段を持つ高坏である。坏体部は直線気味で逆「ハ」の字に立上がり、やや肉薄となる口縁部で弱く外反しやや丸味のある口端部となる。脚上部は直線気味で内傾し、脚中位下部で大きく内傾してやや丸味のある脚端部に至る。	坏部内外面ヨコナデ。坏外底部及び脚上部の外面は剥落・欠落の為に調整不明。外面脚下部はヨコナデ。内面の脚上部には絞り痕が見られ下部は右下斜方のハケメ調整後ヨコナデされる。赤色顔料は調整・仕上の後の最終段階に施される。脚部の内面中位と内面裾部に指頭圧痕。	赤色顔料 （10R⅝）

表－1　海士23号墳出土遺物一覧表(1)



挿図－4　海士23号墳周溝南部の断面実測図

挿図－3　海士23号墳墳丘実測図



挿図－5　海士23号墳埋葬主体部遺構図

整理番号	器型	法量(cm)	胎土	焼成	色調	出土位置	形態上の特徴	手法上の特徴	備考
Po7	高坏（坏部）	復口径 17.0 推定坏部高 6.3	均質微粒（水簸胎土）	やや良好	素地は淡橙色～浅黄褐色 内外面に赤色顔料塗付	海士23号墳埋葬主体部	脚部と坏底部を欠落する。坏体部は直線気味で逆「ハ」の字に外傾し、口縁部で弱く外反して丸味のある口端部へ至る。坏底部外縁に接合痕を認める段のある高坏である。	坏部内外面ヨコナデ、外面口縁下部の一部に指頭圧痕を感じる。坏体上部をやや肉薄に仕上げる。	赤色顔料（2.5 YR⅝）
Po8	高坏（坏部）	復口径 17.8 推定坏部高 7.0	均質微粒（水簸胎土）	良好	素地は淡黄褐色 内外面に赤色顔料塗付	海士23号墳埋葬主体部	脚部と坏底部を欠落する。坏体部はにぶく内弯気味に外傾して立上がり、中位付近で直線から外反気味となり、口縁部で弱く短かく外反してやや角張り内傾する口端面へ至る。坏低部外縁に接合痕が見られ段のある高坏である。	坏体部内外面ヨコナデ。内面口縁上端部の一部にヨコハケメを見る。内面体上部に指頭圧痕を感じる。（他の高坏に塗付られた赤色顔料とは異なりやや暗赤褐色の赤色顔料である）外面体部の一部黒斑を認める。	赤色顔料（2.5 YR⅝）
Po9	高坏（坏部）	復口径 17.0 推定坏部高 6.5	均質微粒（水簸胎土）	良好	素地は浅黄褐色 内外面に赤色顔料塗付	海士23号墳埋葬主体部	脚部と坏底部を欠落する。坏体部は直線気味逆「ハ」の字に外傾し、口縁部で弱く外反してやや角張り内傾する口端面へ至る。坏底部外縁に接合痕が見られ段のある高坏である。	坏体部内外面ヨコナデ。外面の口縁下部と体底部外縁に指頭圧痕を認める。	赤色顔料（10 YR⅝）

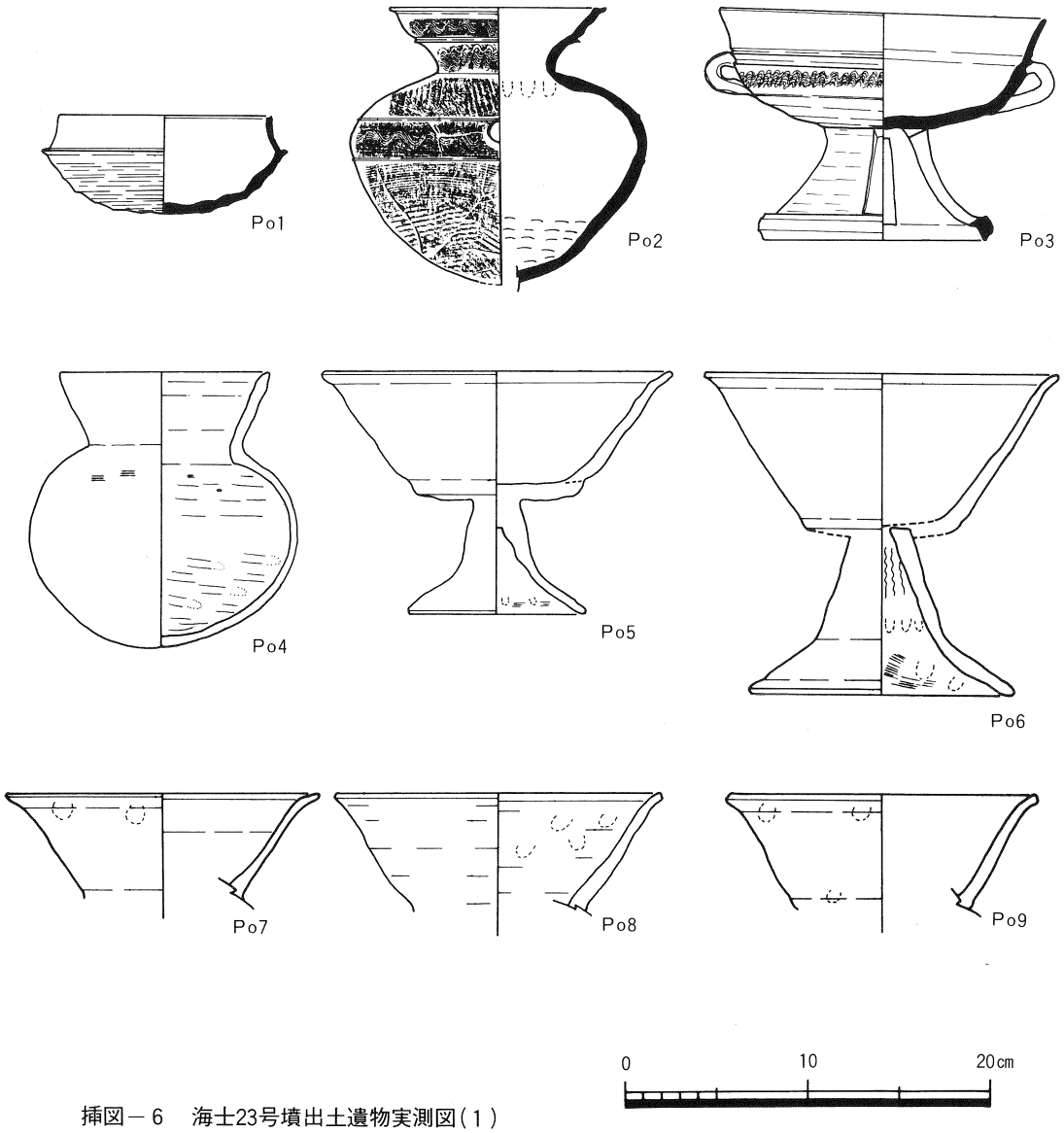
整理番号	遺物	出土位置	法量その他の特徴
F-1	鉄鏃	海士23号墳埋葬主体部	残存長10.7cm。鏃身部全長4.6cm。頸部全長6.2cm。茎部残存長0.5cm。弱いフクラを感じさせ、逆刺を有する腸抉柳葉の短頸鏃である。鏃身部断面は平造りであり、その幅は2.0cm、厚さ0.2cmを測る。頸部断面は基部付近で0.8×0.3cmを測り、角関の頸端部に向ってその厚みをやや増してゆく。茎基部は方形に近い断面を有し0.45×0.35cmを測る。頸中～下部には約4.5cmに矢柄の痕跡としての巻被を認める。
F-2	直刀	海士23号墳埋葬主体部	残存長83.7cmで鋒先の部分をやや欠損する。刀身全体としてやや内反気味を呈する直刀である。刀身残存長60.3cmを測り、鋒付近でやや身幅を減じている事よりフクラ枯の鋒を有するかも知れない。造込みは角棟・平造で、中央付部での棟厚0.7cm・身幅3.6cmを測る。茎との境には斜区様を呈し、約0.5cmの棟区と約1.0cmの刃区を感じる。茎部全長14.4cmを測り、その基部付近での断面は棟側がやや身厚気味の0.85cm・刃側0.75cm、茎幅2.15cmを測る。長方形に近い。刀身中央部での断面に中空となっている部分があり、地鉄の厚さ約1.5mm程度による折返し鍛造により製作されたものと考える。
S-1	石錘	海士23号墳墳丘旧地表	長径約7.8cm、短径約6.0cm、厚さ2.0cm、重さ115gを測る。片理の発達した偏平な凝灰片礫岩の長端部に縄掛け用の切込みを入れた切目型石錘である。長端部に施された切込みは両面より施される。一見すると長端部のみに切込みを入れたA種切目石錘に見えるが、短径端部の一部にも磨耗痕を一ヶ所認める事が出来B種切目石錘としての可能性を有する。

表－2　海士23号墳出土遺物一覧表(2)

棺床に接する如くに鉄器の直刀(1)がその鋒を東方に向けて出土し、棺床中央の南部寄りで鉄鏃(1)が出土した。これらの出土状況は、溝状遺構より検出された遺物は供献土器と考えられる物であり、棺内出土の物は副葬品と考えられる遺物である。

また溝状遺構より出土した踉には底部穿孔された可能性が認められ、高坏（土師器）は溝状遺構出土の３個体の内の２個体に脚が遺存しているが、棺内出土の高坏には副葬当初から既に脚が取り去られており人為的に破壊されたかの如く細片として検出された。

この古墳の築造時期は、須恵器がTK－23に比定される事より古墳時代中期後半（五世紀第３四半期頃）と考えられる。出土遺物に被葬者の土器枕として使用された物は見られ

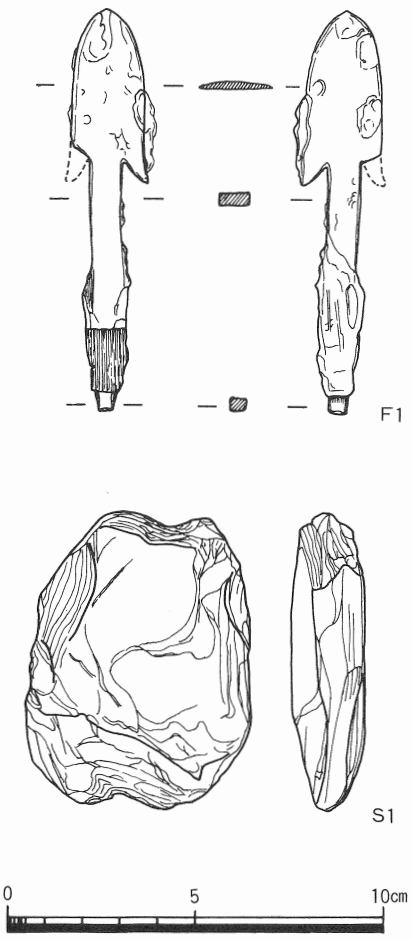


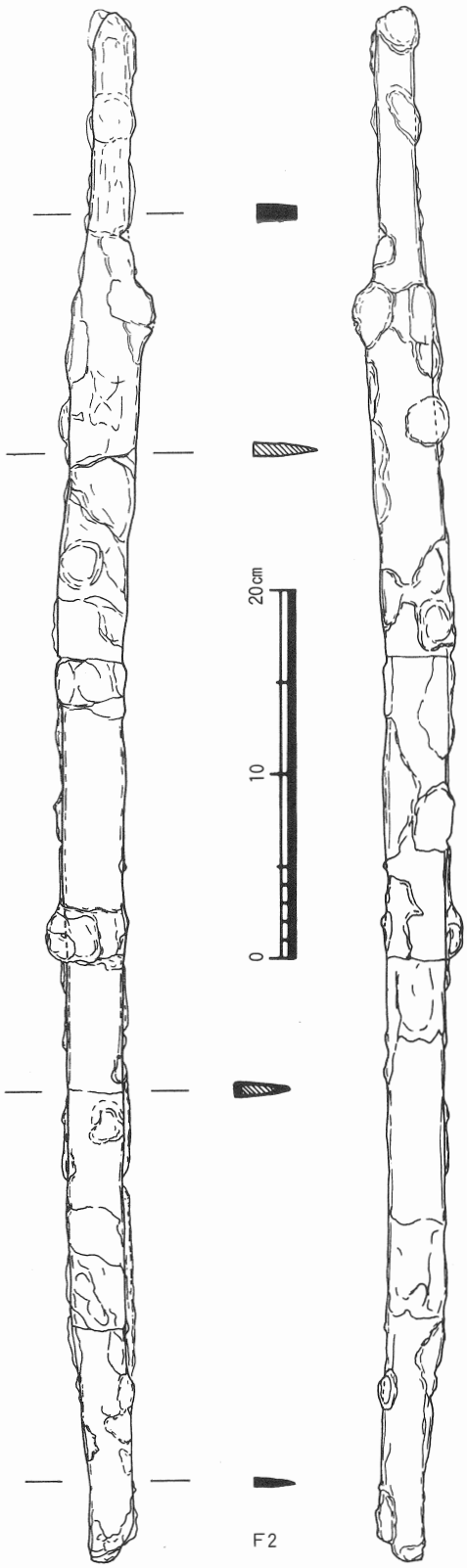
挿図－６　海士23号墳出土遺物実測図（１）

ないが、埋葬頭位は遺構・遺物の検出状況より東方と推定したい。

また、埋葬主体部の掘方から約20cm離れた北方より切目石錘が出土した。この石錘は古墳築造以前の旧地表より検出され、縄文時代晩期頃の物と思われる。

この海士23号墳の墳丘北部に、径約５ｍの円形プランの住居址状の遺構を感じたが、ピット状遺構の深さが極めて浅く、またそのレベルが不自然であった為に確定するには至らなかった。





挿図－７　海士23号墳出土遺物実測図（２）

第２節　海士24号墳について

海士24号墳は、標高25～25.9ｍで丘陵尾根上の最頂部を選地して造営されている。墳丘の保存状態は、その東部が後世の土砂採集により壊されてはいるものの比較的よく遺存しており、径約14m・高さ1.8mの円墳である。周溝は北部と南部に弧状に遺存し、西部と東部には確認されなかった。しかし、埋葬主体部の位置あるいは地形測量より東部にも周溝が巡っていた可能性が強く、いわゆる墳丘の山頂側を弧状に切断したタイプのものでは無い。

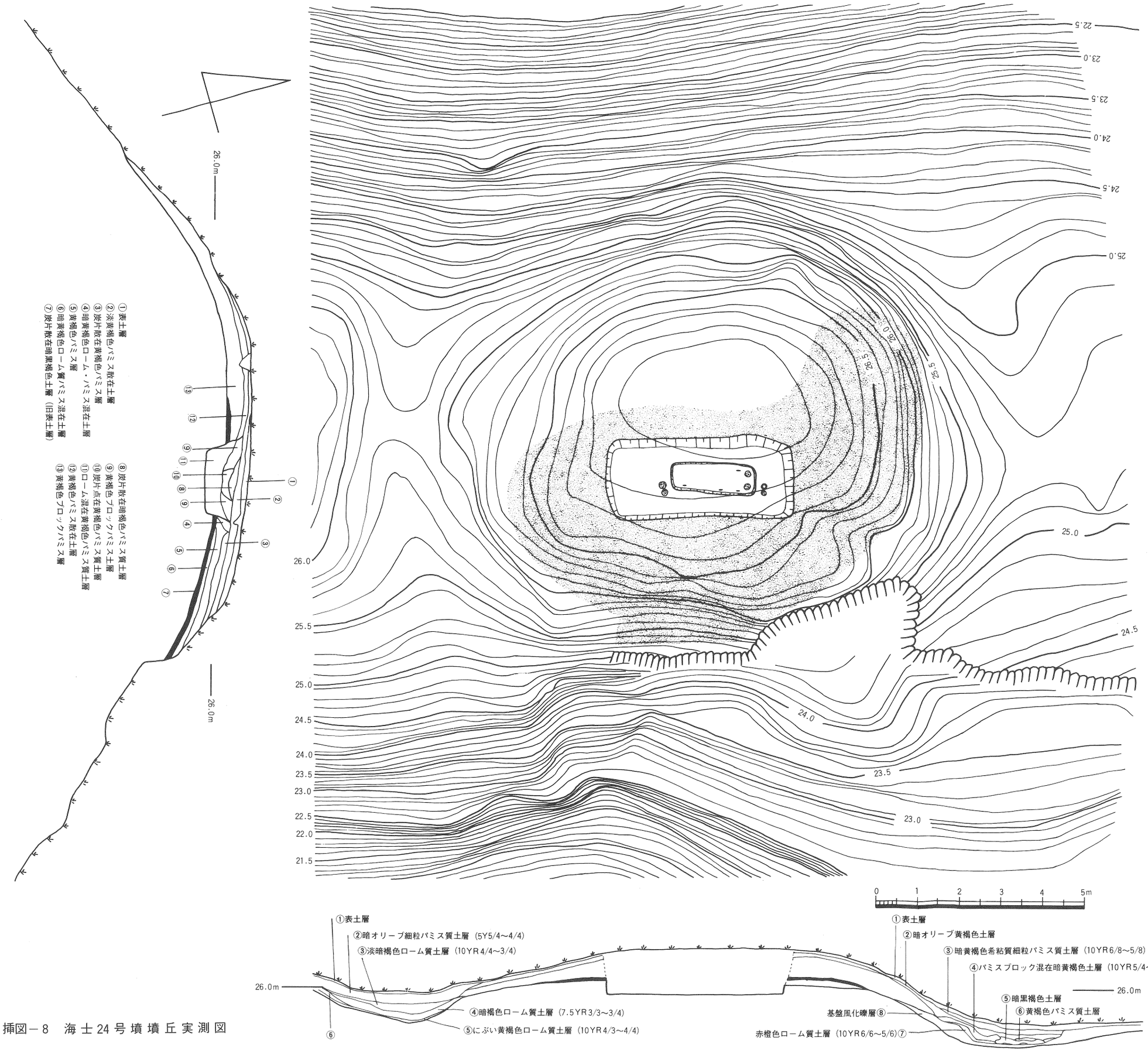
墳丘の築造方法は、海士23号墳と同様に選地後に地表が焼き払われたものと判断され、墳丘の北部・東半部の盛土層直下に多量の炭片が認められる。その後、墳丘の南西部の地山を削り北東部へ盛り上げてある程度整形した後、南部の周溝を掘上げて墳丘全体が構築されたものと考えられる。

埋葬主体部は、墳丘の中央に１基が確認され、その掘方は規模440×190cmを測り隅丸長方形を呈し、その長軸方位はN－15°－Eを示す。埋葬施設は小口痕を残さない木棺と考えられ、その規模は196×75cmを測り、掘方の中央よりやや北部寄りに置かれていた。

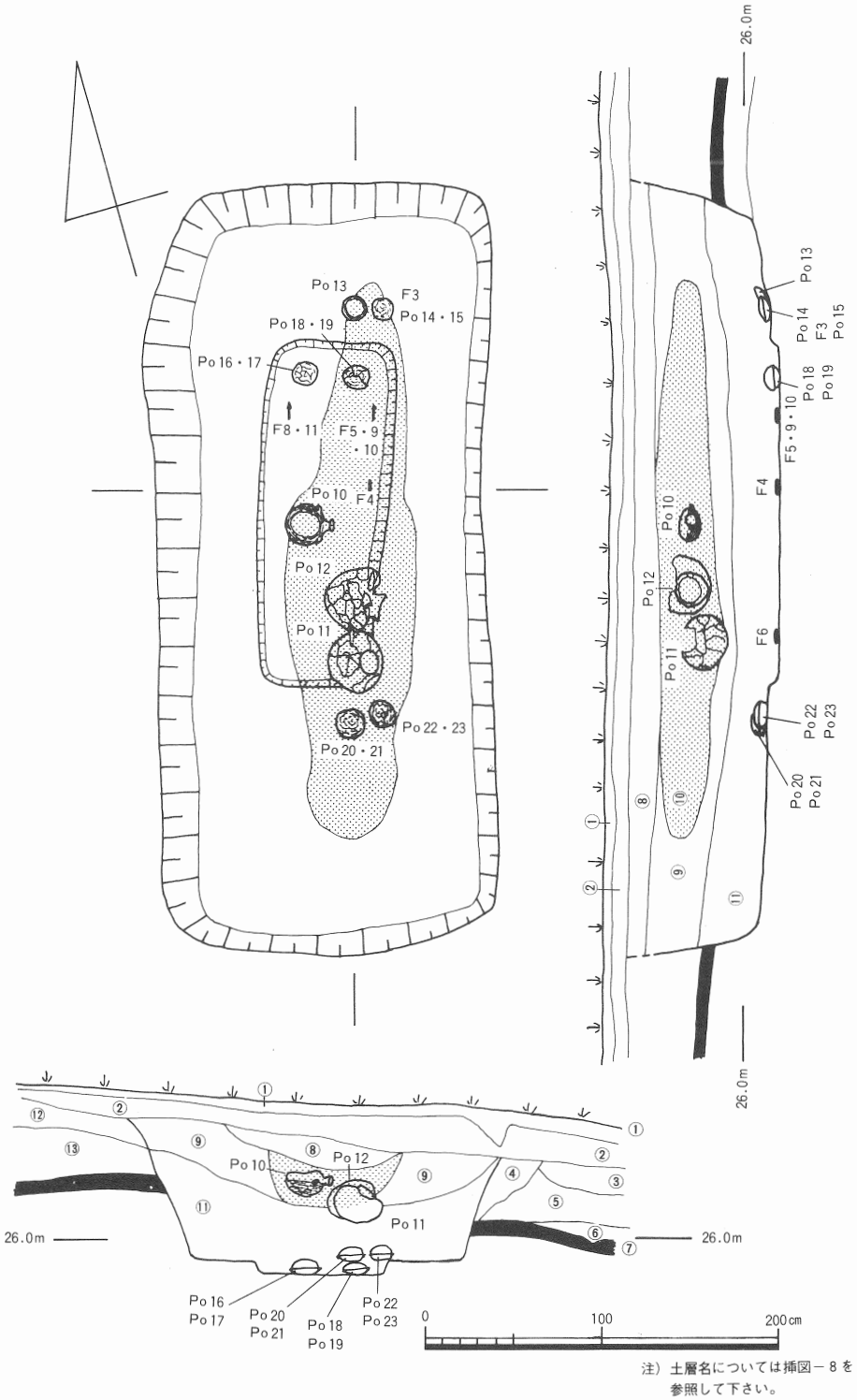
出土遺物は、墓壙直上の溝状遺構より須恵器の提瓶(1)・甕(2)が検出され、棺内副葬品として須恵器の坏身・坏蓋のセットを２セット、そして鉄器として刀子(1)・鏃(6)を認め、棺外副葬品として須恵器の坏身・坏蓋のセットを３セットと坏身(1)そしてPo14・15の坏身・坏蓋のセットに入れられ鈍の刃部片を密着した刀子(1)を検出した。

墓壙直上の溝状遺構より出土したPo11の甕には明瞭に底部穿孔の痕跡が認められ、しかもその底部穿孔された破片の一部を墳丘東部の盛土内より検出した。また、この底部穿孔の器壁断面を観察すると、その外縁は大きく内縁が小さくなっており、穿孔法が器壁の内面から外面に向けて施されたものと推定される。そして、殆ど完全に復元されたPo12の甕にもその底部の割れ方に底部穿孔の痕跡を認める事が出来る。これらの甕の遺存状態より、Po11の甕は墳丘構築中に底部穿孔されたものと考えられ、Po12の甕は墓壙直上の溝状遺構内に設置後に底部穿孔されたものと思われる。

また、挿図－11の坏身・坏蓋のセットは出土した時のセット関係をそのまま図化したものであり、型式・胎土・焼成等から確実にセットとして認められる物はPo16・17とPo18・19そしてPo22・23の３セットである。そしてPo13はPo20とセット関係になるものと思われる。これらの坏身・坏蓋で注目すべき事は、おそらく棺内で被葬者の土器枕として使われたであろうPo16・17とPo18・19がセットとして出土した事と同時に、これらの土器型式が異なる事である。Po13・14・15・18・19・20・21はTK－43に比定される物であり、Po16・17・22・23はTK－10に比定される物と思われる。



挿図－8　海士24号墳墳丘実測図

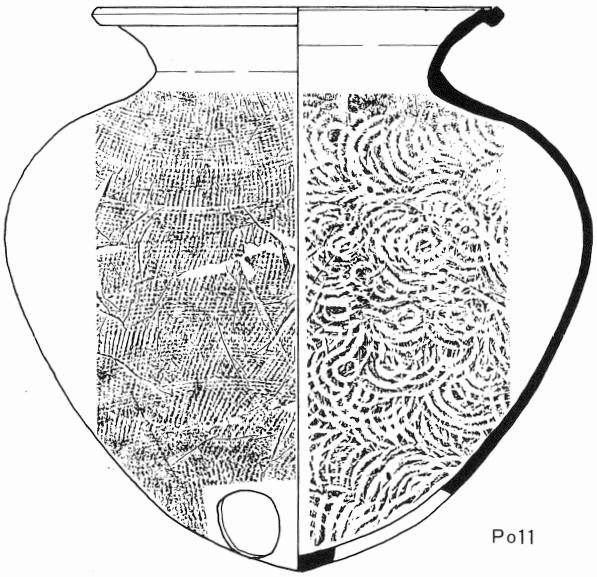


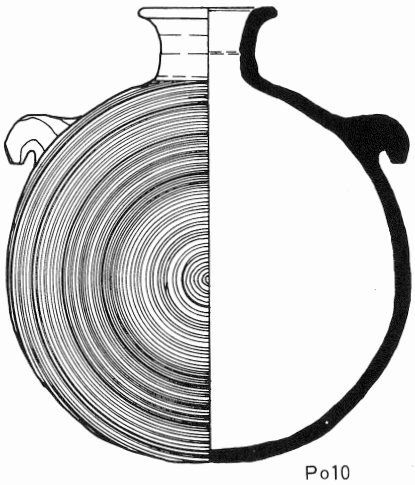
注）土層名については挿図－8を参照して下さい。

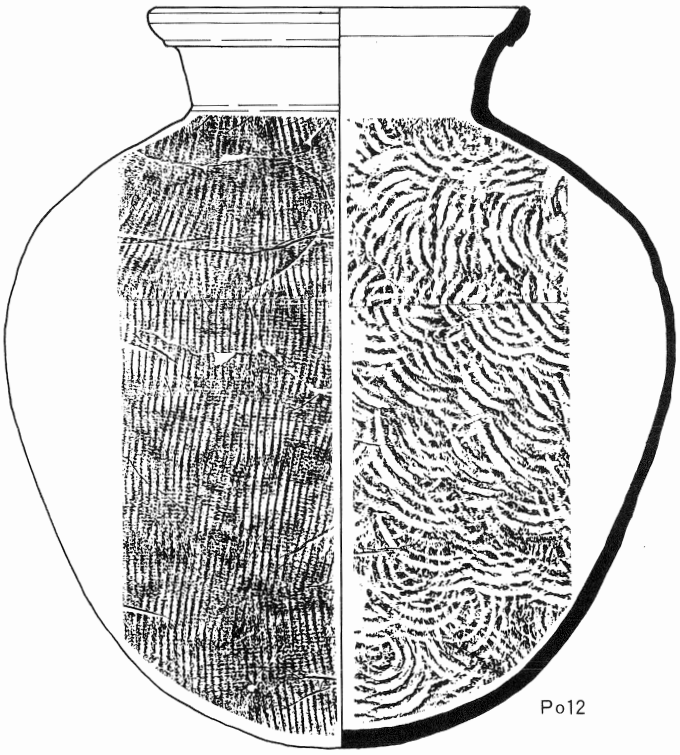
挿図－9　海士24号墳埋葬主体部遺構図

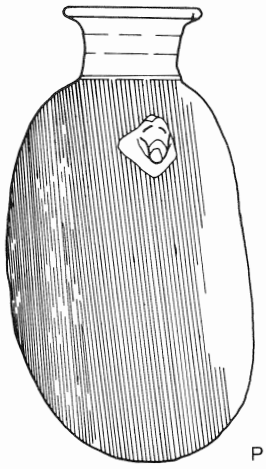
従って、これらの出土状況より土器枕として使用される土器は古式の土器が使われるとは限らず、土器型式の新旧は意識されていないと思われる。

古墳築造の時期は、出土遺物より6世紀第3～4四半期と推定され、埋葬頭位は遺物の出土状況より北方と考えられる。

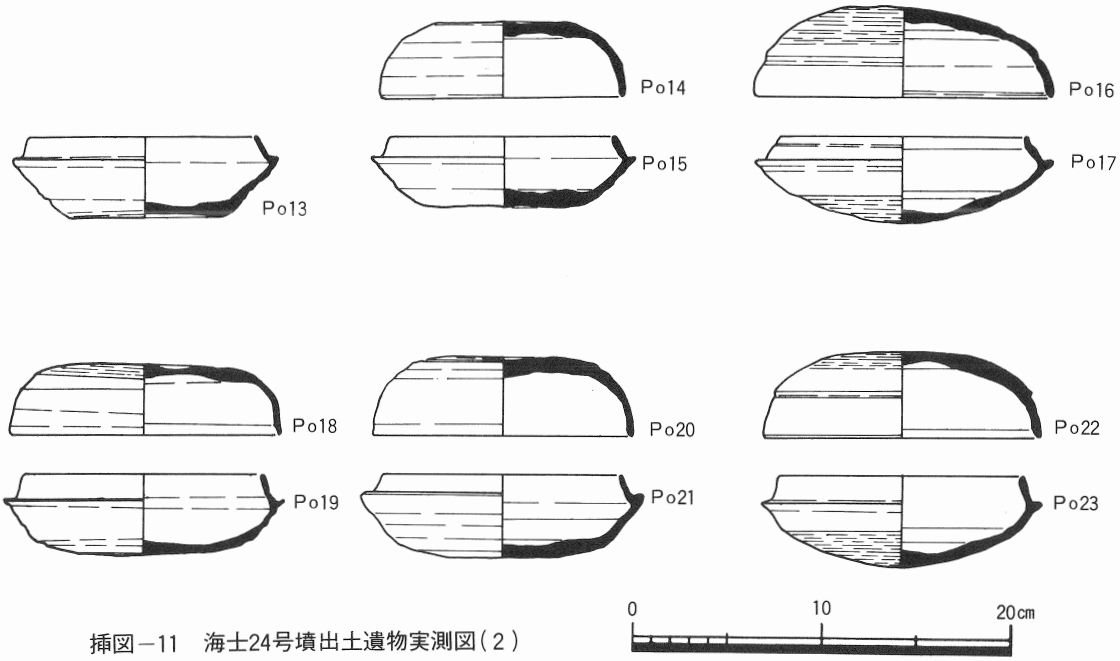








挿図－10　海士24号墳出土遺物実測図（1）



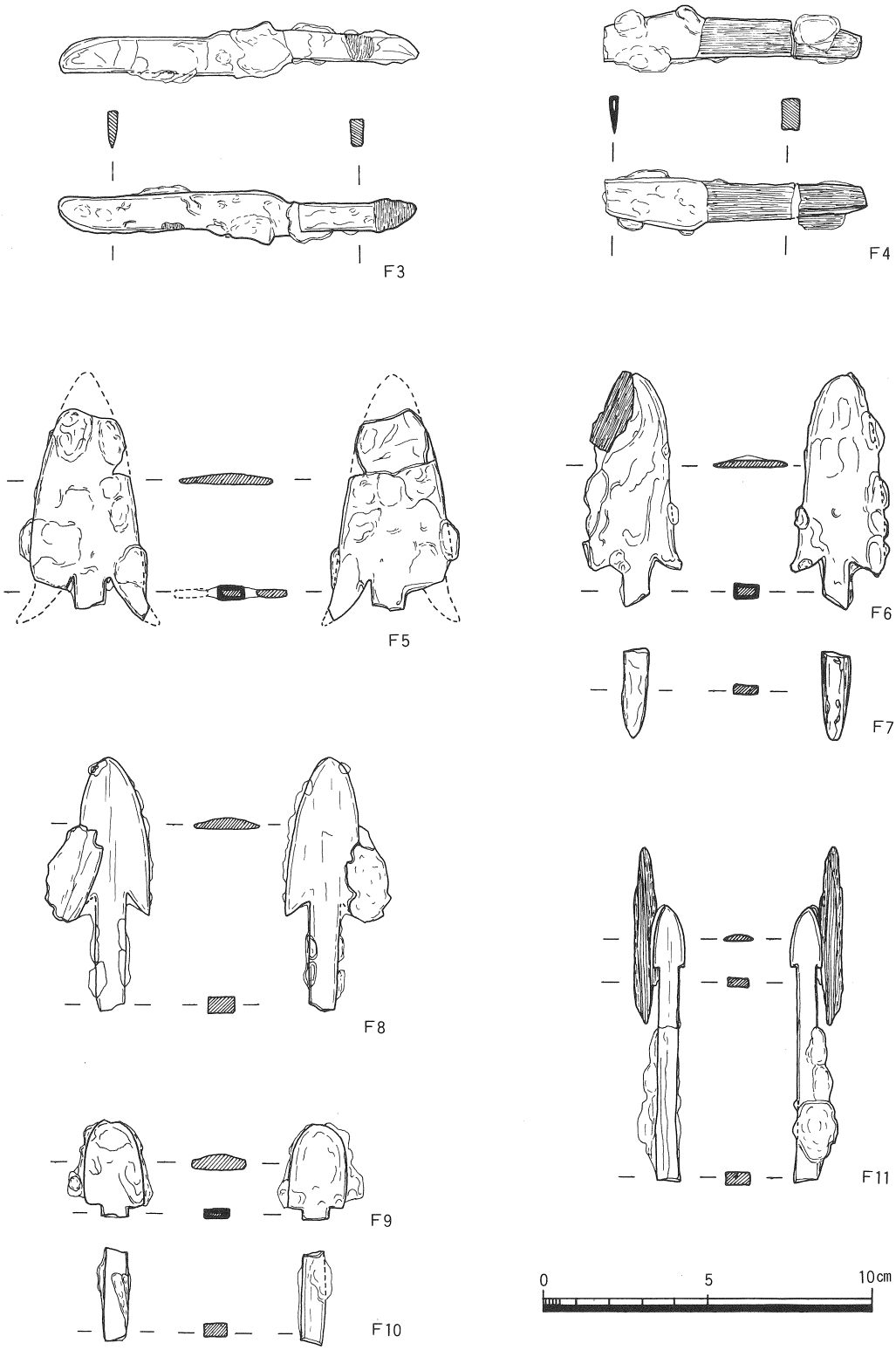
挿図－11　海士24号墳出土遺物実測図（２）

整理番号	器型	法量(cm)	胎土	焼成	色調	出土位置	形態上の特徴	手法上の特徴	備考
Po10	提瓶	口径 7.4 器高24.1 体部径 21.3	小礫点在 均質緻密	良好	淡黒灰色 ～淡青灰色	海士24号 墳埋葬主 体部（溝 状遺構）	いわゆる水筒型を呈し、肩部に一対の鉤状貼付把手を有する。頸部は径5.0cm長さ約3.0cmを測り、直立気味で弱く外反する。口縁部内面はやや内傾するが水平に近い平面を呈し口端部は丸味がある。体部背面は緩やかに弧状を呈し、腹面はにぶい凹凸を感じるものの平坦であり、口頸部とは約８度の傾きを有する。	口縁部は内外面丁寧にヨコナデ仕上される。頸部内外面ヨコナデ。頸部の一部外面には暗緑褐色の自然釉付着、頸部内面中位に弱い一条の凹線が見られ、それより下位にはにぶい指圧仕上を感じる。体部はマキアゲ・ミズビキ成形され、外背面は断続的で丁寧な回転カキ目調整、外腹面は片方向ではあるが丁寧にナデ仕上され、その下部はヘラミガキされる。側面肩部にはカキメ調整後に鉤状把手が貼付られる。	
Po11	甕	口径21.8 器高29.7 頸径15.0 体部最大 径　31.0	巨礫点在 均質緻密	良好	内外面 青灰色	海士24号 墳埋葬主 体部（溝 状遺構）	外反しながら逆「ハ」の字に外傾する口頸部を有し、口縁部外面は肥厚しやや角張る玉縁状を呈する。口端部内縁はやや尖り気味を呈し、その内側に内傾気味の弱い凹面が巡る。体部最大径位は器高の⅔にあり肩部円弧様に張る。体底部は尖底気味を呈するが丸く仕上げられており、その一部に穿孔を見る。	口頸部内外面ヨコナデ。外面体部は全面に丁寧な簾状叩きが施され、体中位から上位にかけて周回単位の回転カキメ調整が後に施される。体下位～底部は叩き後にスリケシ状ナデ仕上される。内面体部は青海波が見られ、体部最大径位と中位下部に接合痕を感じる。	底部穿孔（径約7.5cmの不整円形）
Po12	甕	口径20.1 器高39.2 頸径15.7 体部最大 径　35.5	巨礫点在 均質小砂 散在	良好	内外面 暗青灰～ 暗黒灰色	海士24号 墳埋葬主 体部（溝 状遺構）	にぶく外反気味に逆「ハ」の字に外傾する口頸部の下端に１～２条の擬凹線を見る。口縁部でさらに外方へ段をもって屈曲させられ、内弯しながら立上がる口縁上端部は上方へ丸くおさまる。内面口縁部は内傾する凹面を呈し外反する頸部へ連続する。外面口縁下端には丸味のある凸線文が巡る。体部最大径位は器高の⅓と中位あり、緩やかに立上がる体底部へ連続する。体底部に二方向よりの弱い凹部（型持ち）と肩部・肩部下位に各一ヶ所の凹部を見る。	口頸部内外面ヨコナデ。外面頸下端部が回転を利用して一気に強くナデられて擬凹線となる。体部外面は丁寧に簾状叩きされ、後に弱いヨコナデ仕上を感じる。外底部は叩きの後にスリケシ状ナデ仕上される。内面体部には青海波文が見られ未調整。内底部は青海波文後弱いナデ仕上を見る。体部の接合は底部外縁付近と肩部にあり青海波文の粗密により識別される。	底部穿孔の可能性大（径約６cmの不整円形）
Po13	坏身	口径12.0 器高 4.3 受部径 14.1 立上り高 1.1	中礫点在 均質緻密	やや良好	外面 暗褐黒灰 色 内面 暗褐色	海士24号 墳埋葬主 体部（棺 外副葬）	にぶく内弯気味で内傾する立上がり口端部には丸味がある。受部はやや短かく水平方向を向き端部には丸味がある。受部内面は平坦で水平を呈し、外面は凹面をもたない。外底部はにぶく揚底気味を呈す平坦であり、内底部には凸凹がある。	マキアゲ・ミズビキ成形、体外底部は回転ヘラキリ後雑な片方向ナデ調整、坏外面の底部外縁部のみに回転ヘラケズリを施す。坏体部内外面ヨコナデ、坏内底部外縁に当具痕様有り、立上がりハリツケ後内外面ヨコナデ。	Po 20とセットの可能性大

表－３　海士24号墳出土遺物一覧表(1)

整理番号	器　型	法量(cm)	胎　土	焼　成	色　調	出土位置	形態上の特徴	手法上の特徴	備　考
Po14	坏　蓋	口径12.7 器高 4.1	中砂散在 均質緻密	不良	内外面 浅オリーブ色	海士24号墳埋葬主体部（棺外副葬）	凹凸があり雑だが水平気味を呈する天井部を有し、体下部は弱くマキアゲ痕を残しながら内弯して丸味ある口端部にいたる。口縁部内面下部には弱い擬凹線を感じ、その上位が弱い凸面を呈し内弯して天井部へ至る。内面天井部には凸凹がある。	マキアゲ・ミズビキ成形。口縁部内外面ヨコナデ。天井部外面は回転ヘラキリ後不規則で雑なナデ調整、外面天井部外縁のみ回転ヘラケズリ調整される。内面天井部不規則で雑なナデ調整	急造品？
Po15	坏　身	口径11.8 器高 3.8 受部径 14.0 立上り高 1.1	均質緻密	良好	外面 灰～黒灰色 内面 灰色	海士24号墳埋葬主体部（棺外副葬）	にぶく内弯気味で内傾する立上がりは肉厚であり口端部は丸い。受部はやや短かく水平方向を向き、端部は丸い。受部内面は平坦で水平を呈し、外面は弱く外反した後、内弯する坏体部へ連続する。坏底部外面は粗雑でにぶく揚底気味を呈する。坏底部内面には凹凸が著しく水平様を呈する。坏体部内面には10数ヶ所に気泡状の膨らみを見る。	マキアゲ・ミズビキ成形。外面坏底部回転ヘラキリ・未調整。坏底部外縁のみ回転ヘラケズリ調整される。内面坏底部回転ヨコナデ調整。立上がり部ハリツケ後内外面ヨコナデ。	F-3内蔵
Po16	坏　蓋	口径15.6 器高 4.8	巨礫点在 均質緻密	良好	内外面 青灰色	海士24号墳埋葬主体部（棺内頭位）	やや丸味のある天井部が緩やかに内弯して、内弯しながらやや外傾する口縁部へ至る。体部と口縁部の境界には一条の凹線文が巡る。口端部は丸く、内面口縁下部は内傾するにぶい凹面を呈する。内面天井部には凸凹がある。	マキアゲ・ミズビキ成形後天井部から体部へかけて、その3/4以上を回転ヘラケズリ調整する。内面天井部ヨコナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面天井部の中央に「＋」字状の赤色顔料が感じられる。	土器枕？Po 17とセットとなる。
Po17	坏　身	口径13.1 器高 4.6 受部径 15.8 立上り高 1.3	巨礫点在 均質緻密	良好	内外面 青灰色	海士24号墳埋葬主体部（棺内頭位）	やや丸味のある坏底部が緩やかに内弯して立上がる。受部の端部は水平方向を向き丸味がある。受部外面は内弯しながら外傾し、その下位に凹面をもつ。受部内面は水平方向の凸面を呈し、その内縁に凹線をもつ。口縁部の立上がりは、その中部と下部で直線気味に内傾し、中位上部の擬凹線を境いにやや外反して内傾する口縁上部となる。内面口縁部も内弯して内傾するが上部で外反し、やや肉厚で丸味のある口縁部となる。坏体部内底には凸凹がある。	マキアゲ・ミズビキ成形。外底部中央から周辺部に向って、その3/4以上を回転ヘラケズリする。受部・口縁部は内外面ヨコナデ。口縁部の立上がりはオリコミによると思われる。坏底部内面は片方向の雑なナデ調整。(受部内縁の擬凹線と内面口縁下位のヨコナデによる凹面が丁寧に仕上げられる)	土器枕？Po 16とセットとなる。
Po18	坏　蓋	口径14.2 器高 3.8	巨礫点在 均質緻密	良好	外面 青灰色～暗黒灰色 内面 暗紫灰色	海士24号墳埋葬主体部（棺内頭位）	中央部にやや凹凸があるものの平坦で水平な天井部を有し、その外縁部が内弯して下り直立気味にやや内傾する口縁部へ至る。口縁の外面中位はにぶく外反する凹面を呈し、内面下部は内傾して弱い凹面である。口端部は尖り気味だが丸味はある。(口縁下部が肉薄となる)	マキアゲ・ミズビキ成形。外面天井部の中央部に未調整部分を残すが、水平気味の天井部の略全体に回転ヘラケズリを施す。内面天井部の中央は不整方向のナデ仕上げを施すが、凹凸を残している。口縁部内外面はヨコナデ仕上げされる。	土器枕？Po 19とセットとなる。
Po19	坏　身	口径12.6 器高 4.3 受部径 15.0 立上り高 1.4	巨礫点在 均質緻密	良好	外面 淡青灰色 内面 暗紫灰色	海士24号墳埋葬主体部（棺内頭位）	平坦で水平な坏底部の外縁上位に弱い凹面が見られ内弯しながら外傾する坏体部へ連続する。外面受部下位は外反し、内弯しながら外傾して上斜外向へ尖り気味に丸い受部端部となる。受部内面は上方への凹面を呈し、やや肉薄で直線気味に内傾する口縁部へ連続する。口縁立上り端部は上斜内方へ尖り気味に丸い。坏内底部にはやや凹凸が見られる。	マキアゲ・ミズビキ成形。回転ヘラキリ後外面坏底部の中心から底部外縁までを回転ヘラケズリする。坏体部・口縁部は内外面ヨコナデ。内底部には片方向ナデ調整内面受部内縁には擬凹線は見られず、立上りはハリツケ技法と思われるが、内面立上り下位にはハリツケ痕を残さない様な丁寧なヨコナデ仕上げが見られる。	土器枕？Po 18とセットとなる。
Po20	坏　蓋	口径13.8 器高 4.2	巨礫点在 均質緻密	やや不良	外面 青灰色～暗赤褐色 内面 オリーブ灰色	海士24号墳埋葬主体部（棺外副葬）	中央部にやや凹凸があるものの水平気味の天井部を有し、その外縁の一部にある凹面を境界として内弯しながら外傾する体部を呈し、直立気味でやや外傾する口縁部となり、口端部には丸味がある。口縁部の外面中位は弱く外反し、内面下部はやや肉薄となり直線気味に内傾するがその境界は線として識別されない。	マキアゲ・ミズビキ成形。回転ヘラキリ、外面天井中央部は未調整。外面天井部外縁に回転ヘラケズリ調整が施される。口縁部内外面ヨコナデ。内面天井部には回転ヨコナデ調整が施されるが、弱い凹凸が残る。	Po 13とセットの可能性大
Po21	坏　身	口径12.6 器高 4.5 受部径 15.1 立上り高 1.1	巨礫点在 均質緻密	良好	外面 淡灰色 （自然釉付着） 内面 暗青灰色	海士24号墳埋葬主体部（棺外副葬）	内底部に弱い凹凸があるものの平坦で水平に近い底部を有し内弯しながら外傾する体部をもつ受部下位でにぶく外反した後、内弯気味で外傾する受部外面となり、肉厚で丸味があり水平外方へ向くく受部端部となる。内面受部は凹面気味で水平を呈し、内弯気味で内傾する立上り部へ連続する。立上り口端部はやや肉薄となり尖り気味で丸味がある。立上り部の内面は内弯して下り体部との境いの接合部は線として明瞭に認められる。	マキアゲ・ミズビキ成形。外底部回転ヘラケズリが施され、体部・口縁部の内外面は回転ヨコナデ仕上げされる。内底部は工具痕を残すものの丁寧に回転ヨコナデされ、一部に指頭圧痕も残す。立上り口縁部はハリツケ技法による。(外底部の一部に爍着物がある。)	

表―4　海士24号墳出土遺物一覧表(2)



挿図－12　海士24号墳出土遺物実測図（３）

整理番号	器　型	法量(cm)	胎　土	焼　成	色　調	出土位置	形態上の特徴	手法上の特徴	備　考
Po22	坏　蓋	口径14.6 器高 4.6	巨礫点在 均質緻密	良好	外面 暗灰～暗黒灰色 内面 青灰色	海士24号墳埋葬主体部（棺外副葬）	やや丸味のある天井部が内弯しながら内傾する体部へ連続し、口縁部との境界に極めて短かくやや尖る稜を有する。稜の下位は凹線文が見られ、内弯気味でやや内傾する口縁部の端部には丸味がある。内面口縁下部はやや肉薄となり、直線気味で内傾するが、その境界は明瞭ではない。内面天井部には弱い凹凸が見られる。	マキアゲ・ミズビキ成形。外面天井部から体部にかけて、その彡を回転ヘラケズリ仕上げし、その他は回転ヨコナデする。口縁部内外面ヨコナデ仕上げ、内面天井部は片方向で丁寧なナデ仕上げをするが弱い凹凸を残す。	Po 23 とセットとなる。
Po23	坏　身	口径13.0 器高 4.9 受部径 14.9 立上り高 1.4	巨礫点在 均質緻密	良好	外面 灰～暗灰色（自然釉着） 内面 青灰色	海士24号墳埋葬主体部（棺外副葬）	やや丸味のある体底部をもち内弯しながら外傾する体部を呈する。受部外面で外反して外傾し、短かめで水平方向に尖り気味の受部端部となる。受部内面は平坦で水平に近く、その内縁に擬凹線を有する。外面口縁部は下部で外反気味内傾して立上がり、中部から上部へ内傾気味直立して内弯し、上方へ尖り気味やや肉厚で丸味ある口端部となる。口端部内縁は丸くナデられ、内面口縁下位は丁寧にナデられて境界線は見られない。	マキアゲ・ミズビキ成形。外面体底部から体部へ彡を回転ヘラケズリ仕上げされる。口縁立上り部はオリコミ技法と思われ、口縁部内外面は回転ヨコナデされる。内底部は片方向の丁寧なナデ仕上げを施されるが、弱い凹凸を残す。	Po 22 とセットとなる。

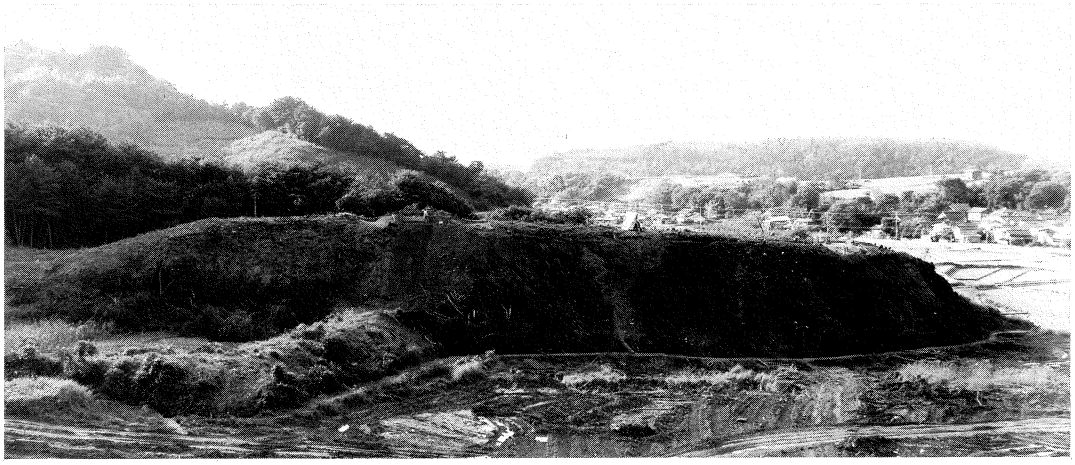
整理番号	遺　物	出土位置	法量その他の特徴
F-3	刀　子（鉈付着）	海士24号墳埋葬主体部（棺外副葬）（Po15に内蔵）	鋒の先端部を一部欠損し、全長9.2cmの刀子に茎尻方向に刃端を向ける残存長3.6cmの鉈が密着しており、刀子と鉈との見かけ上の全長は10.9cmを測る。刀子の鋒はフクラ付と推定され、刃部は棟厚 2 mm、刃幅12mmで断面形が二等辺三角形の平造りであり、刃基部へ向ってやや厚みを増す。刃関は 2.5 mm、棟関は約 2 mm弱を感じ、刃部残存長は 6.6 cmを測る。茎全長は 2.5 cmを測り、その断面形は 2 × 9 mmの長方形を呈する。鉈は身幅が 8 mmと細身であり、その厚みは約 2 mmと思われる。鉈の刃先部と刀子の刃部中央付近に木皮の付着が見られる。この遺物は、口径11.8cmのPo15（坏身）に内蔵され、Po14（坏蓋）により蓋をかけられた状態で出土したものであり、埋葬頭位の棺外副葬品である。従って、鉈は副葬時には既に刃先部のみの状態にされていたものと推定される。
F-4	刀　子	海士24号墳埋葬主体部（棺内副葬）	残存長 8.1 cmで刃部の約彡を欠損している。刃部残存長 3.0 cm茎部全長 5.1 cmを測り、刃部の棟厚 3 mm・刃幅12mmの平造りである。棟関は無いものと思われ、刃関は 2.5 mmを測る。茎部には木質部の残存が良く、その断面形は 5 ×10mmの長方形を呈する。刃部の断面には中空部が見られ、地鉄の厚さ約 1 mmで折返し鍛造によると思われる。
F-5	鉄　鏃	海士24号墳埋葬主体部（棺内副葬）	残存長 6.1 cmで、鏃身先端部と頸部の大半そして茎部を欠損する。逆刺長12mmを含む鏃身部残存長は 6.4 cmを測りその身幅は中央部で 2.6 cmで平造りと思われ、弱いフクラ付きを感じさせる。茎基部長 9 mmを残存し、その断面形は中空となり地鉄厚約 1.5 mmで 5 × 8 mmの長方形を呈する。型式としては、腸抉柳葉短頸鏃と推定され、頸部と茎部の境界は角関を有するものと思われる。（推定逆刺幅 3.9 cm＝逆刺両端部間の長さ）
F-6	鉄　鏃	海士24号墳埋葬主体部（棺内副葬）	残存長7.1 cmで頸部の大半と茎部を欠損する。逆刺の端部を欠くが腸抉型の逆刺を有する柳葉短頸鏃と推定される。鏃身残存長は 6.0 cmを測り、逆刺長 5 mm推定逆刺幅 2.9 cm以上（逆刺両端部間の長さ）鏃身幅 2.2 cmで、その断面形は平造と判断される。頸部は長さ 1.6 cmを残存し、その断面形は中空となっており地鉄厚 1 mmで 7.5 × 5 mmの長方形を呈している。片面鏃身部の一部に針葉樹類の木片を付着している。（頸端部の関部については不明）
F-7	鉄　鏃（茎部）	同　上	F-6と同一地点で出土し、同一個体の可能性がある。鉄鏃の茎部であり、その残存長は 2.7 cmを測り、断面形は 8 × 3 mmの長方形を呈する。従って、F-6の頸部断面（7.5 × 5 mm）に比較してその断面数値がやや不自然と判断され、また、頸関部についても不明な為に、ここでは別個体として数える事とする。
F-8	鉄　鏃	海士24号墳埋葬主体部（棺内副葬）	残存長 7.7 cmを測り、頸尻部と茎部を欠損する。鏃身長 4.8 cm、逆刺長 7 mm、逆刺幅推定24mmでフクラ枯れ様を呈し逆刺部外縁が外反せず、鏃身幅は推定24mmと逆刺幅と同値と思われる。鏃身部の断面形は片丸造り気味を呈するが平造りであろう。頸部残存長 3.3 cmで、その断面形は地鉄厚0.75mmで 7 × 5 mmの長方形である。頸関部については不明であるが、全体として腸抉柳葉短頸鏃と推定される。
F-9	鉄　鏃	海士24号墳埋葬主体部（棺内副葬）	残存長 2.9 cmを測り頸部の大半を欠損している。鏃身部の外形はフクラ付きの五角形を呈する如く思われるが、サビ膨れの為に明確ではなく、鏃身長 2.5 cm、鏃身幅 1.8 cm、鏃身関高 0.4 cmを測る。鏃身断面形もサビ膨れの為に不明であるが平造り又は片丸造りと思われる。頸部は 3 mmが残存し、その頸基部の断面形は地鉄厚 1.5 mmで中空となり 8 × 3 mmの長方形を呈する。従って、鏃身関部が角関の五角形長頸鏃を推定させる。
F-10	鉄　鏃（茎部）	同　上	F-9と同一地点で出土し、これの頸部片と思われる。残存長 2.8 cmを測り、その断面形は鏃身寄りで中空となり頸尻寄りで中実となって 7 × 4 mmの長方形を呈する。
F-11	鉄　鏃	海士24号墳埋葬主体部（棺内副葬）	残存長 8.4 cmを測り鏃身部に長さ 5.4 cmの木片（針葉樹材）を付着する。鏃身部外形は鏃身先端部に丸味がある為片刃形とは思われず、柳葉形を呈すると思われる。鏃身関部は 2 mmの角関であり鏃身長18mm、鏃身幅11mmを測る。頸部断面は 7 × 3 mmの長方形を呈し、頸部長 6.5 cmを測る。角関柳葉形長頸鏃と推定される。（鏃身断面は片丸造り）

表―5　海士24号墳出土遺物一覧表(3)

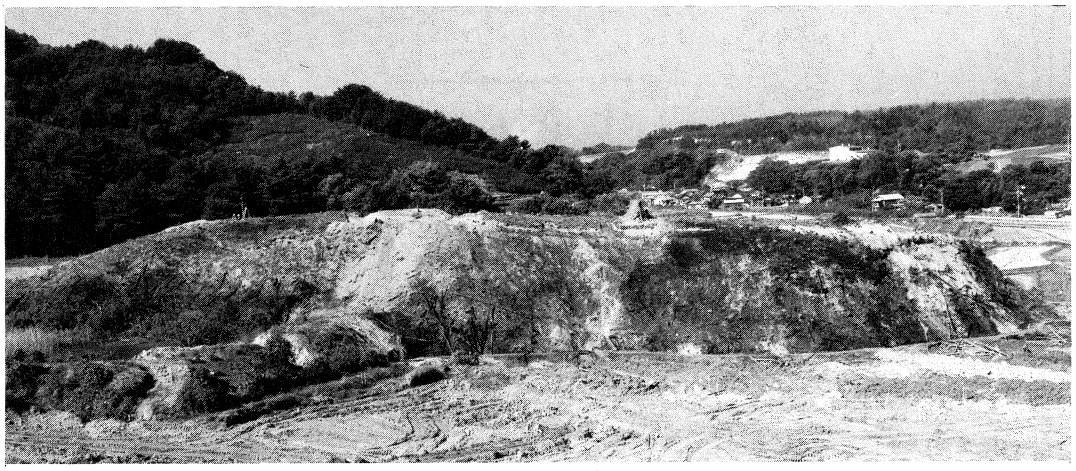
図　版　編

図版１　調査地遠景

調査着手前の調査地（東方より）



調査中の調査地（東方より）



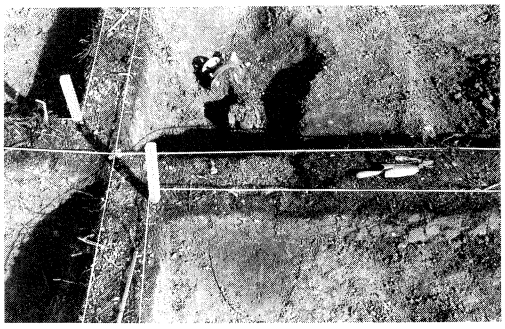
調査後の調査地（東方より）

図版２　海士23号墳(1)

第３～５トレンチ（南方より）

調査前の23号墳（南方より）

調査中の23号墳（東方より）



23号墳墓壙直上溝状遺構（西方より）

Po３・６の出土状況（南方より）

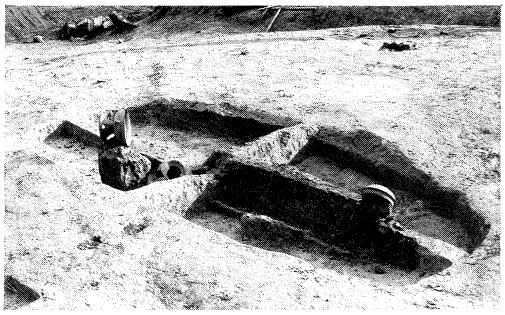
Po３・４・６の出土状況（南方より）

主体部掘方検出と Po３（東方より）

Po１の出土状況（西方より）

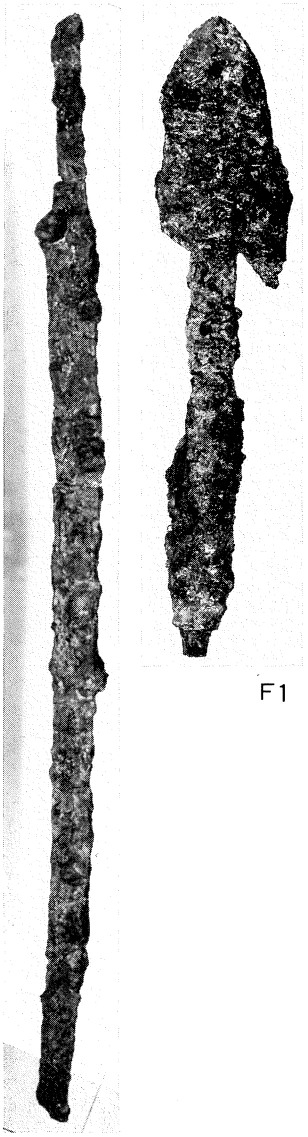
図版３　海士23号墳(2)

周溝南部土層断面（東方より）



主体部掘下げ中（北西方より）

海士23号墳主体部（西方より）



F1

F2

図版 4　海士23号墳(3)

Po2

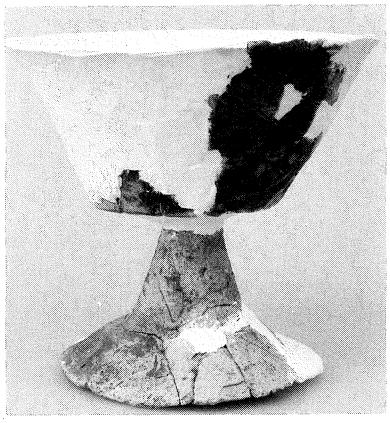
Po1

Po3

図版５　海士23号墳(4)

Po4

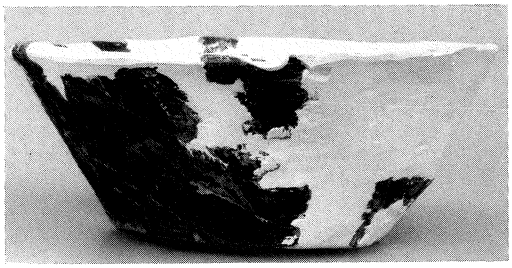
Po5



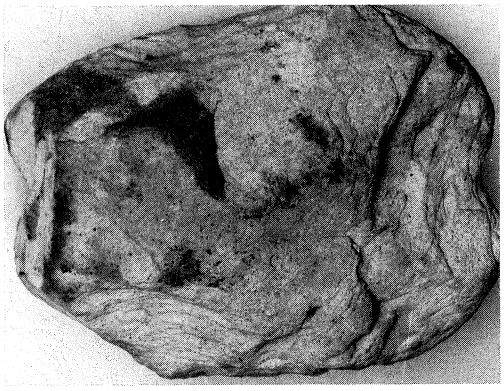
Po6

Po7

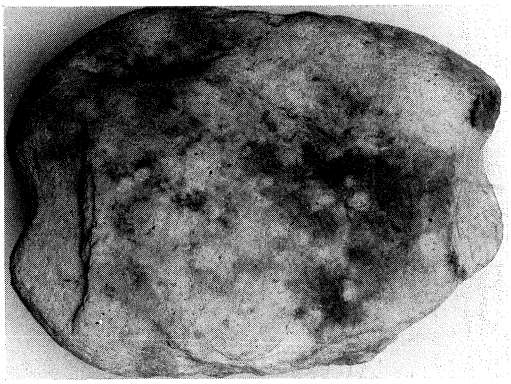
Po8



Po9



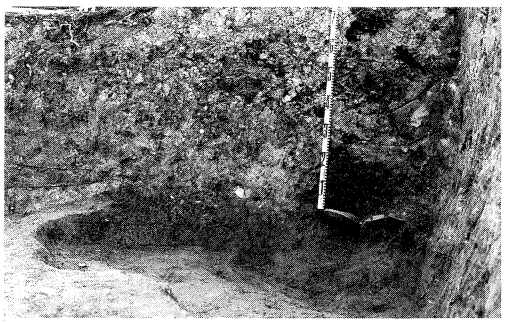
S1



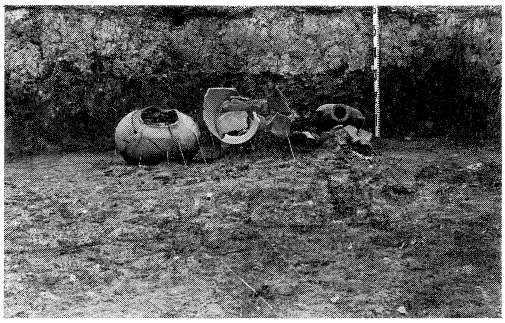
S1

図版6　海士24号墳(1)

調査前の24号墳（北方より）



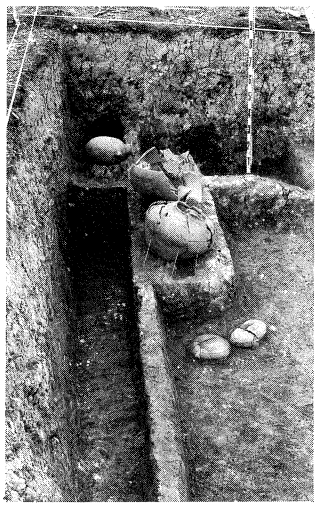
Po13(右)と Po15(左)の出土状況（北方より）



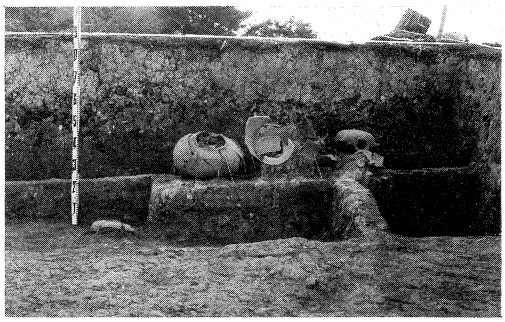
溝状遺構内の供献土器（Po10・11・12）（東方より）

Po10～12と Po20～23出土状況（西方より）

24号墳墓壙直上の
溝状遺構（南方より）

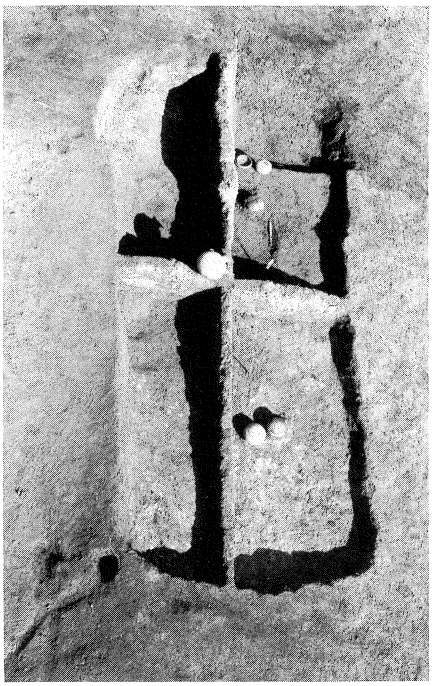


Po10～12と Po20～23
出土状況（南方より）

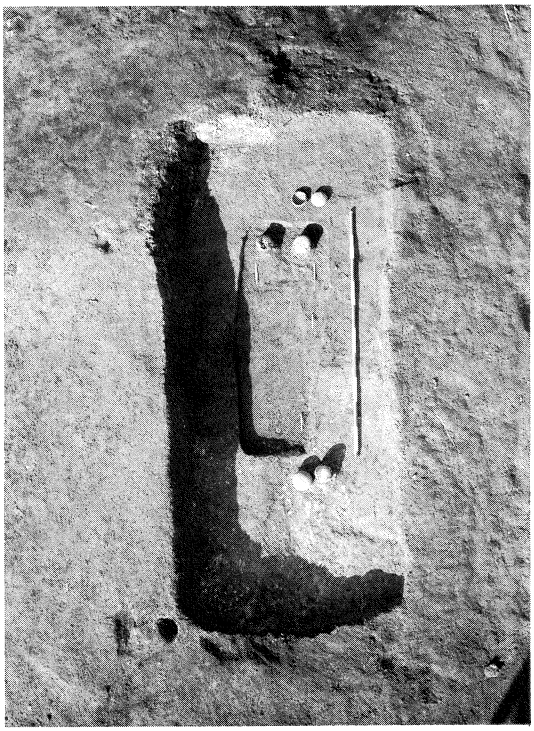


Po10～12と Po20～23出土状況（東方より）

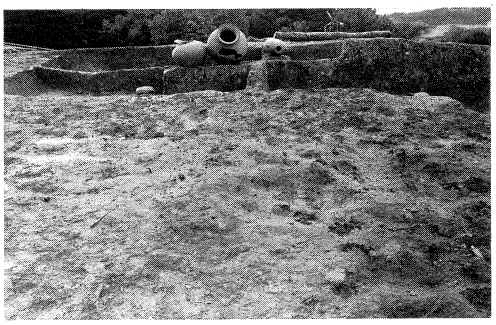
図版７　海士24号墳(2)



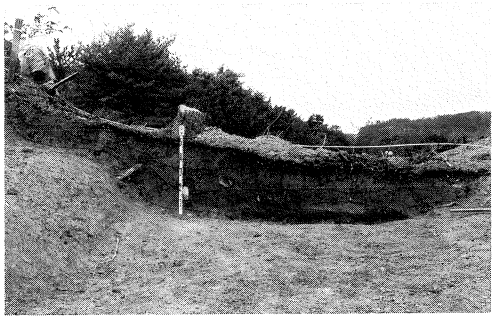
調査途中の
24号墳主体部（南方より）



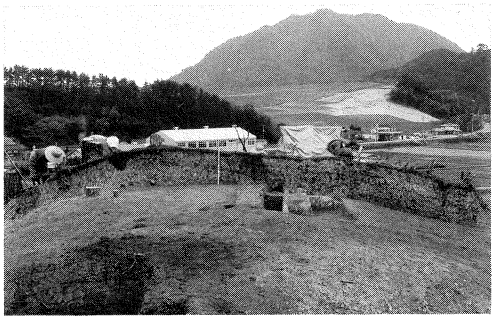
完掘状態の24号墳主体部（南方より）



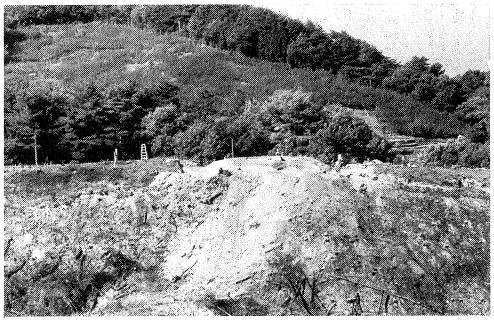
供献土器と棺外副葬土器（東方より）



周溝北部土層断面（東方より）



東西セクションベルト（盛土層）（南方より）



完掘後の24号墳遠景（東方より）

図版 8　海士24号墳(3)

Po12

Po10

Po11

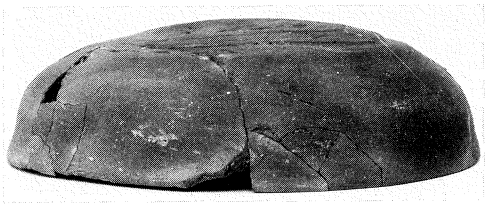
Po10

図版 9　海士24号墳(4)

Po14

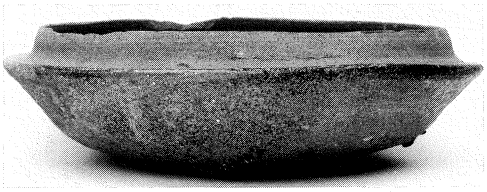
Po13

Po15

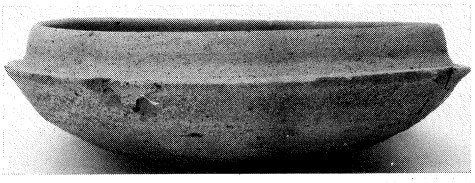


Po18

Po16



Po19



Po17

Po22

Po20

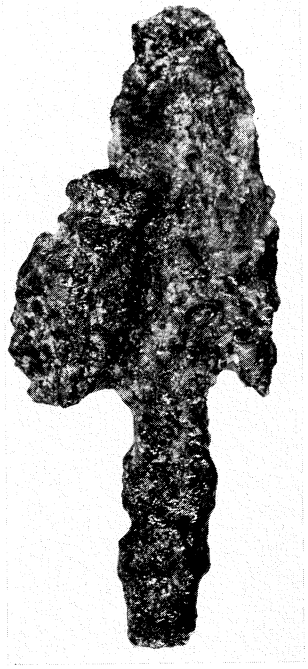
Po23

Po21

図版10　海士24号墳(5)

F3

F5



F8

F4

F6

F9

F7

F10

F11

福部村埋蔵文化財調査報告書　第８集

海士23・24号墳発掘調査報告書

平成２年３月発行

編　集　福部村教育委員会
〒689-01　鳥取県岩美郡福部村細川668
ＴＥＬ（0857）７５－２１１１

印　刷　綜合印刷出版株式会社
〒680　鳥取市西町１丁目215番地
ＴＥＬ（0857）２３－００３１